

取扱説明書

バーグラフ指示警報計

形式
48AV

ご使用いただく前に

このたびは、弊社の製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。本器をご使用いただく前に、下記事項をご確認下さい。

■梱包内容を確認して下さい

・指示計1 台

■形式を確認して下さい

お手元の製品がご注文された形式かどうか、スペック表示で形式と仕様を確認して下さい。

■取扱説明書の記載内容について

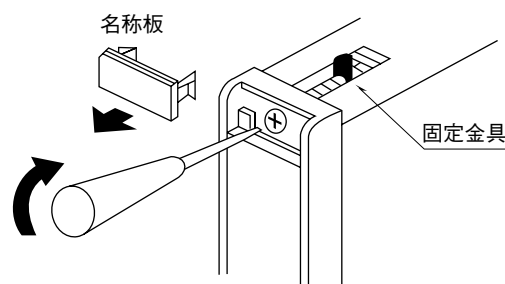
本取扱説明書は本器の取扱い方法、外部結線および簡単な保守方法について記載したものです。

・本体の取付方法

本体前面より上下の名称板を外し、ねじをドライバーで右に廻すと固定金具が出ます。

そのまま固定されるまで廻して下さい。

また、左に廻すと固定金具が外れ、取外せます。



・本体取付に対して放熱のため、縦取付時は本体より上下にそれぞれ 5 cm 以上の空間をあけて下さい。横取付時は左右にそれぞれ 2.5 cm 以上の空間をあけて下さい。

・アクリル板および目盛板は名称板を外しますと取外せます。

●設置について

・屋内でご使用下さい。

・塵埃、金属粉などの多いところでは、防塵設計のきょう体に収納し、放熱対策を施して下さい。

・振動、衝撃は故障の原因となることがあるため極力避けて下さい。

・周囲温度が 0 ~ 50°C を超えるような場所、周囲湿度が 40 ~ 80 % RH を超えるような場所や結露するような場所でのご使用は、寿命・動作に影響しますので避けて下さい。

●配線について

・配線（電源線、入力信号線、出力信号線）は、ノイズ発生源（リレー駆動線、高周波ラインなど）の近くに設置しないで下さい。

・ノイズが重畳している配線と共に結束したり、同一ダクト内に収納することは避けて下さい。

●その他

・本器は電源投入と同時に動作しますが、すべての性能を満足するには 10 分の通電が必要です。

ご注意事項

●供給電源

・許容電圧範囲、電源周波数、消費電力

スペックラベルで定格電圧をご確認下さい。

交流電源：定格電圧 85 ~ 132 VAC の場合

85 ~ 132 V AC、47 ~ 63 Hz、約 5 VA

定格電圧 170 ~ 264 VAC の場合

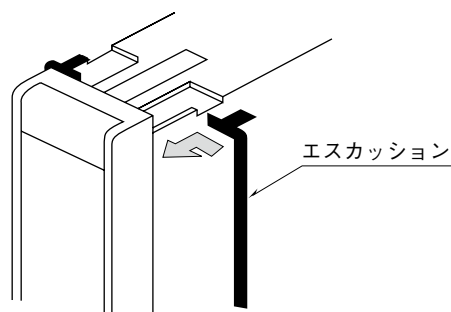
170 ~ 264 V AC、47 ~ 63 Hz、約 5 VA

直流電源：定格電圧 24 VDC の場合 24 V DC ± 15 %、

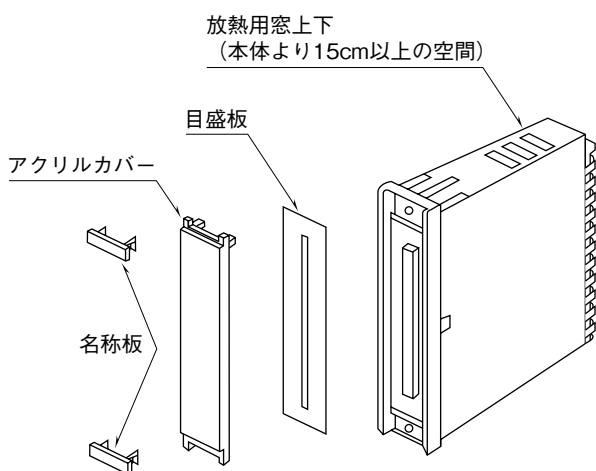
約 4 W

●取扱いについて

・エスカッションはケース内ポケットに一对入っています。取付方法は、エスカッション上下を図示のように内側からはめ込んで下さい。

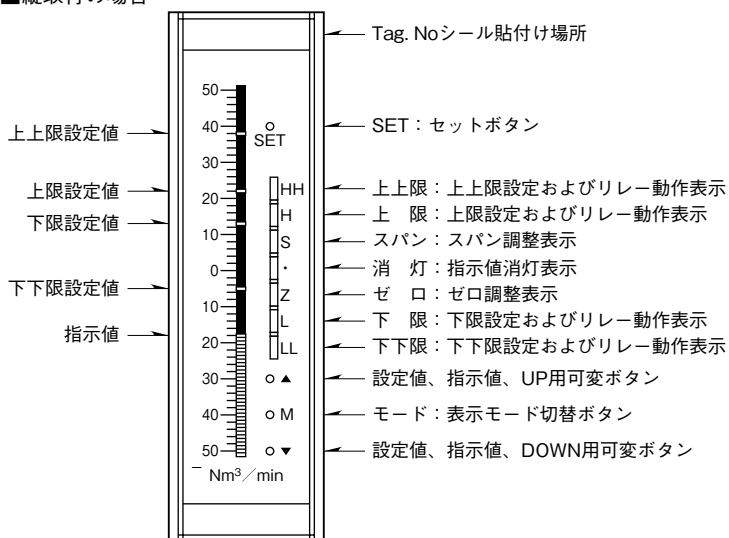


各部の名称



■前面図

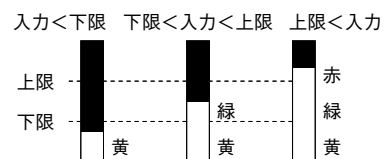
■縦取付の場合



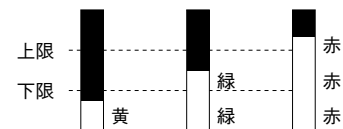
注、48AV-2の場合、上上限、下下限設定はありません。

(バーカラー表示色)

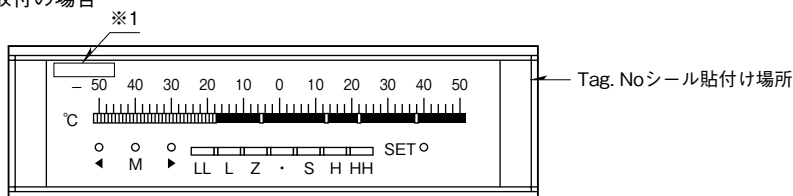
パターン1



パターン2



■横取付の場合



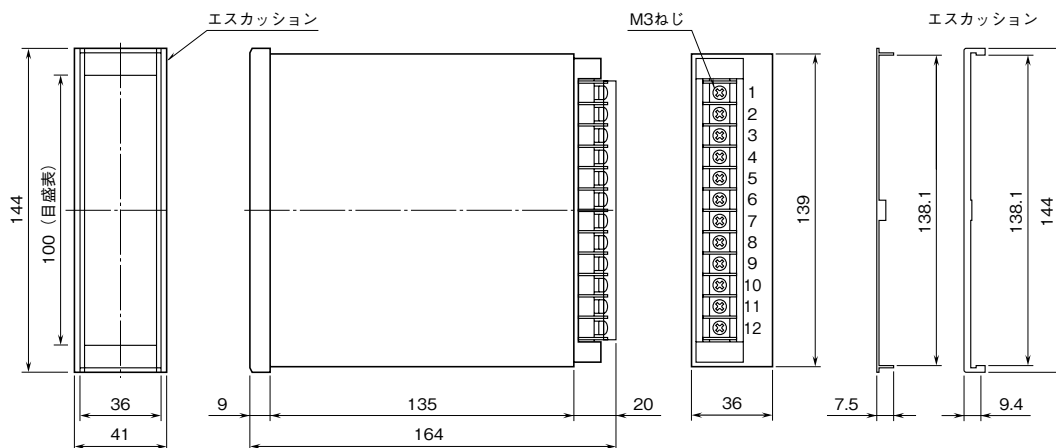
※1、4文字以上の単位記号は上図の位置に表示します。
注、48AV-2の場合、上上限、下下限設定はありません。

取付方法

■パネル取付

下記の外形寸法図・取付寸法図を参考に行ってください。

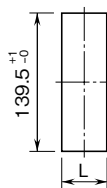
外形寸法図 (単位: mm)



取付寸法図 (単位: mm)

■パネルカット寸法

●縦取付の場合

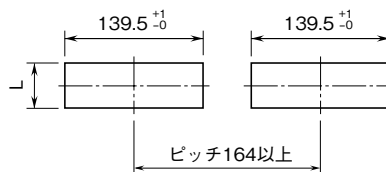


取付板厚: 1.6 ~ 5.5
 $L = (38 \times N) - 0$
 (Nは連結数)

注1、但しN ≥ 2の場合、本体間にはエスカッションが1個必要となります。

注2、本体取付に対し、放熱のため本体より上下にそれぞれ5cm以上の空間をあけて下さい。

●横取付の場合



取付板厚: 1.6 ~ 5.5
 $L = 38 \times (N - 1) + 36.5 - 0$
 (Nは連結数)

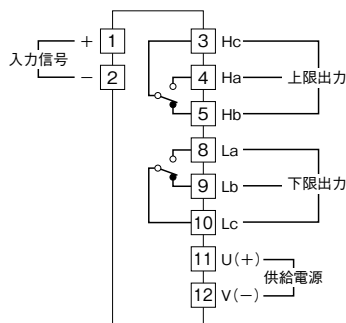
注1、但しN ≥ 2の場合、本体間にはエスカッションが1個必要となります。

接 続

各端子の接続は下図を参考にして行って下さい。

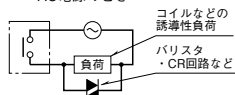
端子接続図

■48AV-2

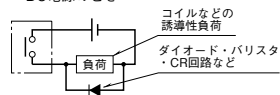


●リレーの接点保護とノイズ除去のため下記の対策を行ってください。

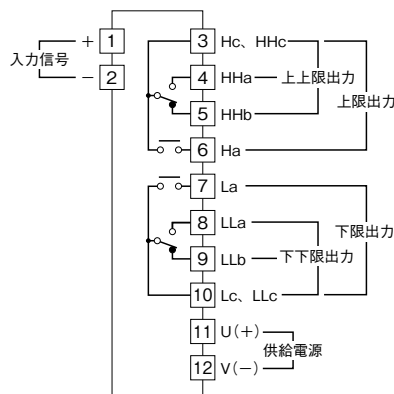
・AC電源のとき



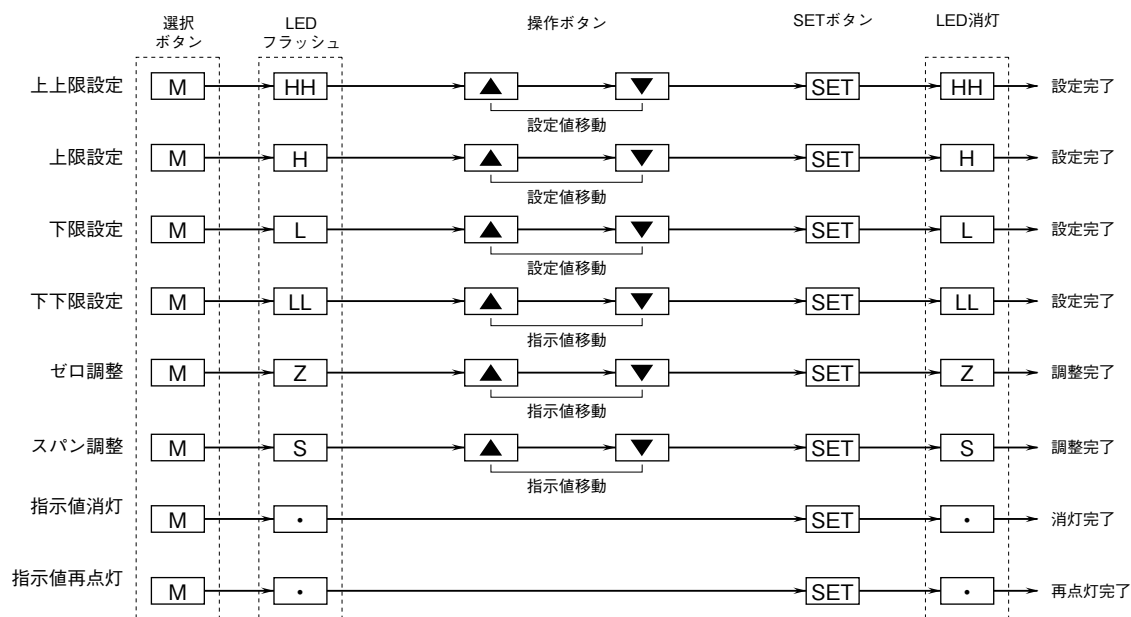
・DC電源のとき



■48AV-4



設定方法



(注) ご使用中に電源が切れても、上・上上限、下・下下限設定値はそのままに記憶されます。
(48AV-2の場合、上上限、下下限設定はありません。)

HH (H、L、LL) の設定方法

- ① M を押し HH を選択する。
- ② ▲▼ で設定値の位置へバーを移動させ SET を押し下さい。(H、L、LL の場合も同様です。)

警報設定範囲

- ・ 48AV - 2 : 上限値 (下限設定値 + 1%) ~ 100 %
下限値 (上限設定値 - 1%) ~ 0 %
- ・ 48AV - 4 : 上上限値 (上限設定値 + 1%) ~ 100 %
上限値 (上上限設定値 - 1%) ~ (下限設定値 + 1%)
下限値 (上限設定値 - 1%) ~ (下下限設定値 + 1%)
下下限値 (下限設定値 - 1%) ~ 0 %

ZERO (SPAN) の調整方法

- ① M を押し Z を選択する。
- ② ▲▼ で調整後 SET と押し下さい。(SPAN の場合も同様です。)

ゼロ調整範囲 : -5 ~ +5 % (前面から調整可)

スパン調整範囲 : 95 ~ 105 % (前面から調整可)

消灯をする場合

- ① M を押し、●を選択する。
 - ② SET を押し下さい。(続いて点灯をする場合は再度 M を押し、次に SET を押し下さい。)
- ・ ▲▼ は 2 度押しして 1 バーの移動、押し続けると早送りします。
 - ・ 各モードとも SET を押しなければセットされません。
 - ・ 消灯は 0 点および入力値のみです。
 - ・ 注! ZERO (SPAN) は工場出荷時に調整済です。
 - ・ 各ボタン位置は、各部の名称項の前面図をご参照下さい。

調 整

本器は出荷時校正済みですので、ご注文時の仕様通りにご使用になる限りは、調整の必要はありません。ただし接続機器との整合をとる場合や定期校正時には、下記の要領で調整して下さい。

■調整方法

校正の場合は本器の基準精度に対し、十分精度を有する信号源および測定器を使用し、電源投入後 10 分以上経過してから行って下さい。

- ①模擬入力信号を 0 % 相当値に設定し、設定方法項 (P4) のゼロ調整に従って、出力表示を 0 % に合わせます。
- ②模擬入力信号を 100 % 相当値に設定し、設定方法項 (P4) のスパン調整に従って、出力表示を 100 % に合わせます。
- ③再び、模擬入力信号を 0 % 相当値に設定し、出力表示がゼロを示していることを確認して下さい。
- ④ゼロ出力がずれているときは、①～③の操作を繰り返して下さい。

保 守

定期校正時は下記の要領で行って下さい。

■校 正

10 分以上通電した後、入力信号を 0、25、50、75、100 % 順で本器に与えます。このとき出力信号がそれぞれ 0、25、50、75、100 % であり、規定の精度定格範囲内であることを確認して下さい。出力信号が精度定格範囲から外れている場合は、調整の項目で指示した内容に従って調整して下さい。

保 証

本器は、厳密な社内検査を経て出荷されておりますが、万一製造上の不備による故障、または輸送中の事故、出荷後 3 年以内正常な使用状態における故障の際は、ご返送いただければ交換品を発送します。